

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	長野県
-------	-----

．学校の概要

平成15年4月1日現在

岡谷市立岡谷小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊 学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	2	2	2	なし	12	19	
児童数	45	42	63	46	46	54	0	296		

．研究の概要

1．主題（テーマ）

「ともに学ぶ喜びを実感する学習を求めて」
 —— ひびき合い自ら練り上げていく学びの道すじ ——

2．研究内容与方法

(1)実施学年・教科

1～6年 算数
 （子どもの理解度に差が出やすい教科であり、当該教科に関する研究実績があるため）

(2)年次ごとの計画

平成14年度	テーマ ともに学ぶ喜びを実感する学習を求めて 研究の見通し（仮説） 日頃の子どもたちの学び方の特徴や習熟の程度，授業におけるその子らしい考え方や意欲の持ち方など，個々の実態のとらえを明確にし，それにそった授業構想の工夫やコース別学習の実施等，日々の授業改善を図る。そのことが，より児童の追究心や達成感を味わえる学習場面を設定することになり，ともに学ぶ喜びを実感して，ねばり強く追究する子どもたちの育成につながるのではないかと考える。
	研究の内容・方法 ・学習問題の自力解決の場面で、教師が つけをして机間指導を行い、取組を即時評価していくことで、指導と評価の一体化を実現させるだけでなく、子どもたちに自分の考えや取組への自信をもたせるようにしてきた。（つけ法の実践、工夫） ・子どもたちの考えや思いを生かした学習を展開していくために、教師も子どもたちも、発言者の真意をしっかりと聞いていけるように、復唱法を実践してきた。 ・より子どもたちの学び方や習熟度等の実態にあった学びの場を実現するために、単元や学習場面によりコース別やTT学習を行ってきた。 ・15分のモジュール制時間割を工夫・活用することで、学習の内容や活動に見合った授業時間を確保してきた。 ・年間授業時数を算数では20時間程度上乗せして実施することで、児童がゆとりを持って、じっくりと学ぶ時間の確保をしている。 ・子どもたちが日頃の学習で疑問に思っていることや困っていることを解決したり、学ぶことの楽しさを更に味わえたりできることを願って学習相談室を設置した。

<p>平成15年度</p>	<p>テーマ ともに学ぶ喜びを実感する学習を求めて —— ひびき合い自ら練り上げていく学びの道すじ ——</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>前年度までの研究の方向を見直し、全職員が育てたい児童の姿として理念を共有することが大切であると考え、研究の見通しについても見直しを図った。本校の教育の願いである「個が輝く岡谷小の子」を具現するために、三つの「め」の輝きを大切にしたいと考えた。すなわち、</p> <p>自信をもって『目』をきらきらさせながら、学びの主人公として学習に向かう姿 「がんばるぞ」「おもしろそうだ」「もっとやってみたいなあ」</p> <p>本物の学びを求めるすどい『眼』で、物事の真理を追究し続ける姿 「きっと、こうじゃないかな」「ちょっとまでよ」「なるほどなあ」</p> <p>伸びている自分の『芽』を実感し、さらに意欲的に学び続ける姿 「わかったぞ」「できるようになったぞ」「よくがんばったなあ」</p> <p>そのような姿を具現するために、一人一人が自分の考えを持ち、互いにひびき合いながら練り上げ、考えの深まりにともに学ぶ喜びを実感できる学習のあり方を求めたい。そのために、教師がいかに子どもたちの考えを的確に捉え、それを生かし深められるか、授業力の向上が大切であると考えた。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>子どもの学びを大切にしたい1時間の授業の構想</p> <p>児童が自ら課題を解決するために意欲的に取り組み、練り上げることで学ぶ喜びをつかみ、上記の三つの「め」を育むことのできる授業のあり方について。</p> <p>指導と評価の一体化を目指して</p> <p>つけ方や復唱法、ノート指導といった本校で取り組んできた1時間の授業のなかでの指導と評価の一体化を図る取り組みをさらに深めるとともに、学力調査やその結果の利用について。</p> <p>個に応じた指導方法や指導体制の工夫</p> <p>習熟度や学び方に応じた少人数学習や学習相談室の運営、補充・発展学習などきめ細かな指導のあり方について。</p>
---------------	---

<p>平成16年度</p>	<p>テーマ ともに学ぶ喜びを実感する学習を求めて —— ひびき合い自ら練り上げていく学びの道すじ ——</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>「個が輝く岡谷小の子」を具現するために、前年度に続いて三つの「め」の輝きを求めていく。特に、数理の美しさや巧みさなどに象徴される学ぶことそのもののおもしろさに出会えるための教材研究や指導構想のあり方を研究していきたい。また、一人一人がその学ぶ魅力に出会えるよう、ひびき合い練り上げる授業の構想やねらいの据え方を見つめ直していきたい。</p> <p>また、そのような学びが一人一人の上に具現できるよう個の学びのスタイルや願いに対応できるきめ細かな指導体制や指導方法の工夫をさらに進めていきたい。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>学ぶ魅力を知り、ねばり強く追究する意欲を高める1時間の授業の構想やそれを支える教材研究・児童理解のあり方について。</p> <p>自分の学びを振り返り、友と関わり合いながら自ら深めていくことのおもしろさを知ることで自己認知のさせ方等について。</p>
---------------	--

本校で取り組んできた一人一人の学び方に応じた指導について、さらに教材の開発を進め、また、それに応じた小集団の構成の仕方や対応する指導方法、特に補充・発展学習のあり方について。

(3) 研究推進体制

研究推進委員会（研究・フロンティア事業の方向決定）

メンバー： 学校長、教頭、各研究部会の主任、副主任

└─ 算数部会 1（日々の授業づくり、授業改善研究）

└─ 算数部会 2（コース別学習、評価規準、カリキュラム研究）

・平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

子どもたちの言葉や思考を大切にした授業を構想していくなかで、子どもたちの中に生まれる「ずれ」を核にした授業づくりをどの学級でも指向していけるようになってきた。

「つけ法」「復唱法」「ノート指導」を職員全員で学び合い、歩調をそろえて指導するなかで、子どもの実態のとらえを大切にした授業、子どもの言葉や考えから創り出す授業を展開できるようになりつつある。また、課題の成立から学習の深まりへの授業構想の持ち方、指導と評価の一体化など、全職員が共通基盤に立ち日々の授業改善について問い合えるようになってきた。

高学年のコース別学習では、子どもの思考の特徴や、願いを大切にした「学び方別」のコースを設定したり、コースを越えてお互いの学びを発表し合う場を設けたりしたことで、より個に応じ、個に寄り添った学習をすすめるとともに、お互いの学びのよさを認め合う学習ができるようになってきた。

授業研究では、授業のシミュレーションやビデオを使っでの授業分析を多く取り入れることで、机上の研究だけでなくより具体的な研究になってきた。また、つけ法や復唱法の講習会に積極的に参加し、自分たちでも学び合う場を設けることで具体的な授業力の向上とともに、教師としてのプロ意識の向上にもつながってきている。

今年度 4～6 年生で行われた長野県学力実態調査の結果では、全体としては正答率で、昨年度の本校の結果（問題は平成 12 年度版）より 3% の向上がみられた。

「あなたは学校の授業の内容がよく理解できますか。」という問いによる児童の生活・学習意識実態調査（平成 10 年長野県実施）と、今年度の本校の実態を比べてみると、「ほとんど理解できる」と「理解できる」を合わせて 82.7% と、県平均を 2% 上回っている。また、保護者に対して行った調査では、88% の保護者が、子どもたちは授業がわかりやすいと感じていることがわかり、授業改善の成果が少しずつ出ている。

2 今後の課題

「つけ法」や「復唱法」「ノート指導」などの実践を更に深めていく中で、より子どもたちの実態や、ことば、考えを大切にした授業づくりや、「ずれ」など生かした明確な学習課題のある授業づくりをすすめたい。また、教材研究を深めることで、子どもたちが教材や教科の魅力に出会えるような授業を創造し、本校の目指す三つの「め」

(目・眼・芽)の実現をめざしたい。

より個に応じ、寄り添った授業をめざして、本校としての少人数学習・コース別学習や学習相談室等のあり方を明確にするとともに、年間を通した指導計画を確立していきたい。

生活・学習意識実態調査から平日の家庭学習の時間を調べると、30分～1時間半の子どもが最も多く、読書も含めた時間としては少ない。家庭学習のあり方を見直すとともに、基礎基本の確実な定着を目指して「これだけはできるようになろう」(例えば、2年生では九九、5年生では全国の県名など)という内容を洗い出し、えんぴつタイムなどドリル学習の時間の充実を図りたい。

・学力等把握のための学校としての取組

- ・県の学力実態調査問題を利用して毎年本校でも実態調査を行う。(昨年度までは平成12年度版を使い、年度末に行っていたが、本年度から平成15年度版を使い、9月初め頃に行うようにした)
- ・その結果の分析をもとに、指導方法の改善や教育計画の見直しを図る。
- ・本校の重点目標にそって学校自己評価を行い、その中で児童の学習に対する考えや態度もとらえていく。
- ・さらに、Q-Uなどを利用して、学級集団のあり方や児童の所属意識など学ぶ環境としてどうであるかなども目を向けている。

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

毎年、他校教職員、保護者、住民の参加を得て全学級公開及び授業研究会等を実施しているが、来年度も7月9日(金)に公開授業研究会を開催する予定である。その公開授業研究会と通して、本校のフロンティアスクールとしての取り組みを紹介していきたい。来年度は本校のホームページを開設して、今までの研究成果の公表なども行う予定で準備を進めている。

また、指導者としてお呼びしている志水廣愛知教育大教授のご指導のもとに、教師の授業力向上のためのセミナーを開くなど、広く県下に具体的な形で研究成果を伝える取り組みもしていきたいと考えている。平成15年度は2月21日に実施済みであるが、参加者からは、「具体的で明日の授業からも生かせる内容である」「機会があればまた参加したい」などと好評を頂いている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|------------|-----|------------|----|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | ✓ | 14年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | ✓ | 7～12学級 | |
| | 13～18学級 | | 19～24学級 | |
| | 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | ✓少人数指導 | ✓ | TTによる指導 | |
| | ✓一部教科担任制 | | その他 | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | ✓算数 | 理科 |
| | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | ✓ | 有 | 無 |